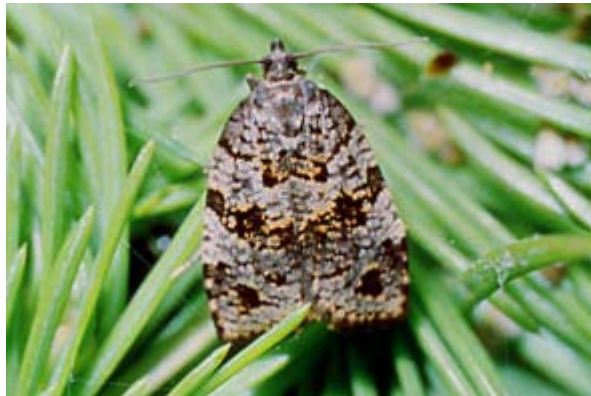


トウヒオオハマキ

春にトドマツやエゾマツなどの新芽を糸で綴って食べるイモムシ（幼虫）。最大長約22mm。独特の色彩により識別は容易。トドマツやエゾマツなどトウヒ属でまれながら多発する。



1. 幼虫, 1968/6.



2. 成虫, 1968/7.



3. 卵塊, 1966/7/12.

【学名】 *Lozotania coniferana*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera), ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道, 本州; 千島.

【生態】

宿主：モミ属（トドマツなど）、トウヒ属（エゾマツなど）、ツガ。

年1回発生。幼虫は春に新葉を糸で綴って食べる。6月には十分成長し、葉を糸で束ねて中で蛹になる。成虫は6月中旬から7月中旬頃に出現する。雌成虫は葉の根元付近に卵をまとめて産む。2齢幼虫のときに数枚の葉を糸で綴り合わせて巣を作って中で越冬する。

【被害と防除】

モミ属やトウヒ属でごくまれに多発する。防除は普通必要とされない。

【文献】

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場報告, 22: 85-129. (分類, 形態, 生態)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

トウヒオオハマキ hamaki/tohiooha/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/11/8.

yochu.JPG, seichu.JPG, tamago.JPG

「写真1～3」上条一昭, 北海道立林業試験場, 1966-1968.